

第15回横浜市都市美対策審議会表彰広報部会会議録	
議 題	審議事項 議事1 第9回横浜・人・まち・デザイン賞まちなみ景観部門について（審議） 議事2 その他
日 時	平成29年11月13日（月）午前10時から12時まで
開催場所	横浜市開港記念会館 2階6号室
出席委員	委員：関和明、大西晴之、塩田久美子、鈴木智恵子、中津秀之
欠席委員	なし
出席した書記	嶋田 稔（都市整備局地域まちづくり部長）、梶山祐実（都市整備局企画部都市デザイン室長） 鶴田 傑（都市整備局地域まちづくり部景観調整課長）
開催形態	公開（傍聴者なし）
決定事項	賞の方向性については検討し、広報の方法についてはいただいた意見をできるだけ反映していく。
議 事	<p>1 第9回横浜・人・まち・デザイン賞まちなみ景観部門について（審議）</p> <p>資料を用いて事務局から説明を行った。</p> <p>○関部会長 ありがとうございます。一度事務局のほうに戻しますので、これからどういうふうに進めていくか、説明をお願いいたします。</p> <p>○事務局 改めまして本日ご意見をいただきたいポイントとしましては、選考の全体の流れ、スケジュール、選考方法について、それから様式の部分ですと、個票の案について、こういうものを取り組んだらいいとか、こういう構成にしてもらえると見やすいなどご意見いただければと思います。リーフレット・ポスターにつきましては、次回の合同部会で第9回の案をお示しする予定ですが、その前にこういうふうにしたらいいのではないかとというようなご意見があれば、本日いただければと思っています。それから、賞の周知に向けた今後の取り組みについてということで、今後こういう部分について取り組んでいったらいいのではないかとというようなご意見もいただければと思います。また先ほどお話ししました、郊外部での募集案件が少ないというのと、あと区によってはまだ選ばれていないところもありまして、パネル展等をやっていますと、自分の区を受賞案件がないというのは寂しいというような意見もありますので、より身近なものの応募が増えるような形の工夫をしていけたらというのは事務局でも考えているのですが、そういった部分についてご意見をいただければと思います。</p> <p>あと、最後にご紹介しました景観教育の部分、デザイン賞とは直接関係ないのですが、広報という部分で一緒にご紹介させていただいたのですが、こういった子供たちの景観への取り組みとかも、デザイン賞のヒントになるようなものがあればと思って、一緒に説明をさせていただきましたので、あわせてご意見をいただければと思っています。よろしくをお願いいたします。</p> <p>○関部会長 結構たくさん項目があると思いますけれども、最初に説明いただいた資料の順で、スケジュールの確認ですが、資料の2です。本日が11月13日で、年が明けまして1月12日に合同部会というのを、地域まちづくりのほうとまちなみ景観のほうで一緒にやります。そちらでリーフレットとか、最終的な公募の募集方法が審議され決まるということです。それから1年以上後になりますけれども、来年の12月ごろに現地視察があります。その前にどういうものが出てきたかというようなことは整理していただいて、本審査が12月中旬ということです。最後に決まったものが、再来年の5月に表彰式があるということになります。全体の時間的な流れは以上ですけれども、こちらについて何かご質問等ありますでしょうか。</p> <p>○事務局 結構長いスパンでのスケジュールではあるのですが、主なスケジュール、表彰式とか、募集のタイミングについては毎回同じような形でさせていただいております、地域まちづくり部門と並行してやる形になるので、おおむね日程についてはこの形で進めさせていただければというふうには考えています。</p> <p>○関部会長 あと、こちらのまちなみ景観部門に関しては、再来年3月になりますけれども、次年度の年度末の都市美対策審議会の親会で審査結果を報告するということですね。</p> <p>○事務局 そうです。</p> <p>○関部会長 わかりました。何かご意見ありますか。鈴木委員、いかがですか。</p> <p>○鈴木委員 時間をかけて丁寧なスケジュールということで、特にまちなみ景観の応募案件の調査は事務局の方がすごく大変だと思うのです。暑い時期の7月から10月で大変だと思うのですが、やはり</p>

こちらの個票をすごく大きい選考のポイントにいつもさせていただいています。横浜も広いですから、いろいろ出てきても、全部そんなに知らないです。だからそういうことで、やはりこちらに力を入れていただきたいと思っています。

○関部会長 ここ数年だと、例年100件くらいはあるんですね。

○事務局 そうですね、100件以上です。

○関部会長 まず個票の資料を見ていただいて、そこから幾つか現地視察をしたいというものを選び、1日かけて視察するという順番になります。

○中津委員 完全に素人なので、質問が山のようにあるのですが、これに関して言うと、資料3を見ると、部門の振り分けのところでは「案件」という単語が使われていまして、それ以外のところでは「物件」というふうに使われていますけれども、これは何か使い分けはあるのですか。

○事務局 特にないです。

○中津委員 不動産用語なので、私、非常に「物件」という言葉には抵抗があるのです。すごく個別のものというのを市民がイメージする可能性があるのも、もし行政上問題ないのであれば「案件」と言っていたほうが市民への広がりはいいかなという気がします。

○事務局 わかりました。「案件」のほうに統一をさせていただきます。

○関部会長 いかがでしょうか。ちょっと先ほど整理していただいた話の中でスケジュール、それからそもそもこの事業と申しますか、まちなみ景観賞の趣旨とか、基本的なことについて、何かお尋ねとかありますでしょうか。既に8回行われていて、今度は9回目ということで、隔年で行われる事業ですけれども、どうでしょうか。

○中津委員 今年、実はまちづくり系で表彰いただいて、ありがとうございますと言いたいのです。ずっと横浜市がまちづくり系と景観系と一緒に1つの賞として表彰しているというのがすごく重要なことだと思うのですが、16年間やってきたことをどういうふうに毎回役所として効果を評価しているかというのを知りたいなという気がします。また、お互い、まちづくりということと、景観というものをどういうふうに融合していくかということの議論は、そろそろすべきだなということ、実は具体的には佐々木葉さんなんかとよくそういう話をするのです。

こんな話をしているのかどうか、世界遺産みたいなものも今ものだけでは表彰対象にならなくなってきています。それをどういうふうに横浜市として考えるか。資料8の目的のところ、「まちなみを構成する建築物等」や「地域まちづくりの取組」を顕彰しと、パラレルにそれぞれ別で1つの賞をあげているというふうになっているのですけれども、それがもうちょっと相乗効果をもたらすようなことを市民の方にイメージしてもらいたい時代かなという感じがしています。この辺の文言を、あと何かもう一節入れて、それぞれが地域プライド活性化につながるとか、コンセプトのところから見直すような、見直すというかもうちょっと深めるような、今までやってきた実績はすばらしいので、そうしたほうがいかなと思っていたところ、資料10の景観教育の話がありましたので、これ、すばらしいことですよ。私も金沢区内ではこういうことをよくやるのですけれども、こういうのをもうちょっと進めるような、教育セクターとか、こども青少年局とか、そういう社会福祉系のところも含めて、それがどういうふうに地域を深めていくかというのに、どんどん広げていくようなコーディネートを都市整備局のほうでやっていただけたらいいのかなというふうに、大まかな感想としてそう思いました。ソフトとかハードとか分けて考えない時代ですから、それを全部含めてシステムとしてどういうふうに地域の愛着をもたらすかですとか、そこに長く子供たちが住み続けようと思うかとか、高齢者が元気にいろいろな人たちと交流するかとか、そういうふうなものにつながっていけば、他の部局との、リーダーシップみたいな形で都市整備局がすごくよくなっていくかなという気がします。

○事務局 ありがとうございます。

○鶴田書記 いまのご意見についてコメントさせていただきます。例えば資料1別添に記者発表資料をつけていますが、3ページ目の一番上の「『夢の舞う岡』と命名されたまちの玄関」というのが景観部門で表彰を受けていますが、実際にはこれは地域の活動がもとになっています。こういった、ひょっとしたら地域まちづくり部門に入ってもいいのかもしれないものを景観のほうで表彰しているということは、まさに中津先生の言われていることに繋がっているかと思いました。

○中津委員 よく知っています。それがもうちょっとコンセプトのところ、条項に文言として活字化されていくというのがすごく重要なことだと思うのです。結果的に今、景観で表彰すべきか、まちづくりで表彰すべきか迷ってしまうようなものが出てきていることがすばらしいことなのです。それをもうちょっと市民がイメージして、自分たちの活動に広げていくということがすごく重要ですし、そういう活動を好きな人たちだけではなくて、ほかの子供たちとか、普通のサラリーマンで日々地域

にいない人たちも気にするようになるというような、広報の仕方も含めて、その辺をやるとすごくこの賞がもっともっと、さっきのアンケートなどの内容も変わってくるのではないかなと思います。

○関部会長 そうですね。今回から初めて表彰広報部会のほうに加わっていただいた委員の方、いかがでしょうか。

○塩田委員 今、中津先生がされたお話と重なる部分もあると思うのですが、まず8回まで回を重ねてきていて、今までの形を踏襲して行って、また9回、10回と進めていくのか、例えばまた新たな賞をつくるというようなことを考えて、より広がりを持たせていく可能性というのがあるのかどうかという部分が、説明を受けていて非常に気になった部分です。広報の仕方とも絡んでくると思うのですが、賞の目的そのものが、今既に活動をしていたり、景観に興味を持っていたりする人限定ではなくて、より広がりを、底上げという変な言葉かもしれないですが、余り身近な景観に目を向けたことのない人にまで向けてもらうようなきっかけという形になっていく方向を目指していこうとしているのか、このまま進めていくという形で、そのスタンスがちょっとわからないなと思って資料を拝見していた部分があります。

○事務局 そうですね。事務局としてはなるべくそういう底上げの部分もやっていきたいとは思っているのですが、なかなかその部分のアイデアがまだ出せていないところです。

○鶴田書記 お手元の2ページ目に区別の応募案件が出ております。例えば青葉区についても6件出てきています。

○事務局 各区1件は少なくとも出ているのですが、やはり数としては少ない区と、中区など30件くらいと多い区と、まちまちです。

○塩田委員 各区出ているのであれば、例えば区役所に区内の候補を、パネルなどで出して、投票箱を置いておいて、投票することによって区民賞みたいなものというのはできると思うのです。人気投票ではないですが、だから、そういう細やかな部分というのがあると、関心がなかった人まで関心を持つという部分に広がりが少しずつ出ていくのかなと思う部分もありました。

○事務局 そうですね。まだ区によっては1件しか応募がなかったところとかがあるので、なかなか。もうちょっと数を増やしていかないといけないかなと思います。

○塩田委員 そうですね。そんなふうに思いました。

○事務局 ありがとうございます。

○鈴木委員 お2人の先生方の意見と関連して、やはり区で巡回のパネル展をしていただいたことというのはすごくよかったと思うのです。例えば横浜18区のうち、青葉、瀬谷、旭、保土ヶ谷、港南、磯子という6区が全然ないわけです。今まで賞をとってなくて、私はこの資料の地図を見たときにびっくりしてしまったのですが、どこの区でも1つくらいあるのではないかなというふうに思っていたので、ちょっとびっくりしたのです。ですから、巡回パネル展というのはすごくよかったと思うのです。そういうパネル展をすることで、例えば区役所の地域振興課とか区政推進課の方の意識も高まりますし、もちろん区民へのPRにもなりますし、こういう賞があるのだとことがよくわかります。

それと、やはり細やかな広報ということになりますと、例えば18区それぞれの区民活動支援センター、18区の地区センター、コミュニティハウスとか、小さいところだけでも、そういうところでの広報も強化していったほうがいいのではないかなというふうに思うのです。私は今港北区に住んでいるので、例えば港北区ですと毎月こういうものが出されているのですが、こういうものに例えば5月のときに、5・6月が募集月だから、5月の広報に、それぞれの区の市民活動センターでつくっていますから、こういうところにも掲載してもらおうとか、あと、区の担当者の方の意識が高まると思います。例えば区ごとで、今横浜ですごくいろいろなイベントをやっています。これは港北区なのですが、例えば鶴見川の小机町というところでいろいろな半年間くらいにわたるイベントをやっているのですが、これはちょうどこちらの新横浜公園から見たトラス橋のところに当たるのです。こういうときにちょっとPRしてもらおうように持っていくとか、何かやはりこの賞自体を多くの人に知ってもらわないといけないので、そういう取り組みが必要だと思います。

あと、自薦が少ないというお話でしたけれども、自薦ですと建築系の方とか、専門の方ではなくて、お施主さんのほう、つくるほうというのはビジネス系の人ですよね。ビジネスのそういう世界も取り込んでいったほうが、こんな賞をもらってうちの会社のいいPRになるみたいな感じで、そういうので知ってもらったほうがいいので、例えば横浜商工会議所さんのほうでも何か広報していただくとか、そんなことも必要なかなと思いました。

あと、今まち歩きがすごく盛んです。いろいろなことをまち歩きでやっていますので、こういう受

賞したものの見学会を開いたらいいのではないかと前から何回かこちらで言ったことがあるのですが、それだとバス代がかかるとか、費用がかかるので、そうではなくて、実際にまち歩きをやっている、例えばシティガイド協会さんなどできれいなパンフレットをつくってやっているけれども、そういうところに入れてもらう、それは入れ方によっていろいろできるので、そういうことで実際に見てもらおうとか、そういう市民団体と一緒に協力してやっていくというのがすごくいいのではないかなと思うのです。これは神奈川歴史ガイドのチラシなのですが、例えば、東横線の歴史をたどって、これにはフラワー緑道が入っていますし、神大キャンパスをめぐるというのも神奈川大学も2つ受賞していますから、大きなツアーに入れ込んでもらう、そういう積極的な各団体への働きかけをしたほうがいいのではないかなと思います。

あとは町内会です。昨日も都田小コミュニティハウスのお祭りに行ってきたのですが、町内会長さんというのはその地域のキーパーソンでいろいろな方を知っていて、それなりに影響力があるのです。特に景観とか、日常的には意識していないのですが、こういう賞があって、この地域ですばらしい景観があったらぜひみんなに知ってもらいませんか、などと言ったら、絶対こういう賞に興味を持つと思うので、そういうような働きかけもやっていったらいいのではないかなと思っています。

やはり偉い先生がこれとこれがいいと選ぶ賞ではなくて、市民の賞なので、それで市民の景観とかまちづくり、アクティビティのほうと、意識のレベルアップを目指している賞なので、お2人の先生方がおっしゃったように、これからは本当にきめ細かくやっていくのが必要なのかなというふうに思います。

○関部会長 ありがとうございます。では大西委員、どうぞ。

○大西委員 皆さんのお話を伺っていて、全くそのとおりだと私も感じているのですが、私も事前にあの資料を送っていただいたときに、今後この会がどういうものを目指していくのかなと思いました。やはり地域密着的なことをやっていくのか、あるいはもっとprestigeが高いようなものを対象にそういう賞を出すのかというようなことがはっきりしなかったのですが、考えてみると横浜といってもかなり広いですから、今までの受賞も区によって非常にばらつきが多いというのは、やはり住宅地であるとか、前は畑や何かが多かった地域であるとか、それから中区であるとか西区だとかそういう業務中心のところというのでは、仮に応募するのでも、内容は全然違ったものになってくると思うのです。だからこそこちらでも、地域まちづくり部門とまちなみ景観部門というような、2つに分かれているのかなと勝手に想像していたのですが、まちなみ景観という、どうしてもそういう業務地域とか、そういうところになってくるのかなと。やはり横浜と一口に言っても、地域によって全然形態が違いますので、いろいろなものがあっていいのかなという感じはしておりますが、最終的には横浜市民にとって、あるいは横浜市にとって、いかに地元横浜の魅力度をアップするかという一助を担えるようなものにしていくことが必要なのではないのかなと思いました。

それで、私も非常にいいと思ったのは、最後の、学校教育の一環として、こういうことを広めるというのは非常にすばらしいことだと思うし、それから会議所なんかでも、残念ながら意外にこの賞の知名度がないのです。それで、これを受賞すると非常にネームバリューが上がるとかというものは、やはりそういう西区とか中区だとか、そういったところにおいては必要なのではないかなという気がするのだけれども、この広報絡みにしても、業界団体でも市内の建築家協会であるとか、横浜市内だけに限ってしまっているのかなと。もっと広範なところにもこういう賞の存在を知らせて、応募して、これを受賞するという事は非常にprestigeの高いことだと。受賞のプレートも第7回からできたのですが、そのプレートを張れることが非常に会社とか個人にとっても誇らしいとか、あるいは社会貢献できた。この賞を受けて得られる利点というのが何かというのは、皆さん誰も即物的なことを求めているのではないと思うのですが、やはり人間にとって社会的な貢献を自分がこれによって少しでもやっているのだとか、そういう満足感というのは非常に高いものがあるのではないのかなという感じがしています。

ちょっと取りとめのない話になってしまうのですが、私も一応会議所から推薦されて出ているものですから、そうするとどうしても業務的なエリアとまちについてこうしたらいいのではないかなという案が中心になってしまうのですが、やはりほかの方も言われたように、住宅地域だとか、そうでない工業的な地域だとか、それによって仕分けをして考えていかないと、同一レベルでまちなみ景観という一くくりだけだと、多少難しい部分があるのかなという感じがしています。

○関部会長 ありがとうございます。

○鈴木委員 この賞は横浜市以外の人も応募できるのですか。

○鍋田書記 誰でもできます。

○鈴木委員 じゃあちょっと表記してもいいですね。

○大西委員 先ほど言われていたディベロッパーであるとか、そういう人たちだって、特に最近では業務施設だけではなくて住宅地においても大規模開発などというの、やはりディベロッパー中心のものが多く見受けられますので、そういう住宅や何かについてもすばらしいまちづくりをしてくれたとかいうものには、もう少し範囲を広げて周知をしたらどうかなという感じがするのです。

○中津委員 この応募作を見ていると、多分業者の応募というのが一目見てわかるものもあります。多分そういうところはマンションの広告に使っているのだと思うのです。

○鈴木委員 そうですね。業者の方の応募って、見ていて心を打たないというか。結局、短い文章でも他薦でこれがすごく好きですとか、いいですみたいなほうが、私は心にすっと入ってきて。

○大西委員 おっしゃるとおりで、売らんがための、そういうことに使うのは望ましいとは思わないけれども、例えばこのエリアをマンションであろうと戸建てであろうと開発するについて、これだけ大きな広場をつくり、公園をつくり、それが本当に地元の環境がよくなるとか、地元の人たちも参画して、そういう意味ではこういう業務地区なんかでも大きい建物が出てきて、最近ほとんど公開空地や何かを設置、容積率アップを求めるために公開空地と、そういう公開空地や何かも本当に地元のためになっているのかなと。ただ数字合わせで、ここは公開空地にしますよということで、有効利用されているというものに私は余り出会わないのですけれども。

○中津委員 そういう業者のつくるものが地元の「こと」につながるようなことができれば。

○大西委員 ええ、それでこのプロジェクトは非常に内容がいいからこういう賞を差し上げましょうとか。

○中津委員 そういうような、「こと」につながるようなものをつくれる業者は、やはりそれなりに表彰してあげてもいいかなという気がするのですけれども、その辺はやはりハードだけではなくて、一緒に見ていくというのは重要なと思います。

それと、広告というか宣伝するというので、各論的にそれだけ見るならば、ごみ政策は相当成功していたと思うのです。みんなごみに関して、親は全然興味がないし、連合町内会とかでいろいろ告知しても全然広がらなくて、全部家の中の子どもが、子供のいるご家庭ですけど、子供がどんどん親を教育するという状況になっていたわけです。それはすごく有効な広げ方だったと思うので、この最後の資料10に入っていたような、まちづくりワークショップをやってくださいとかというのによく駆り出されるのですが、何かもっと、教育委員会はそうですが、校長会とかでそういうのを説明すると、すごく広げやすいですね。校長会に直接話しに行くと、いろいろなことをやらせていただくことというのが結構あるのです。そういうところからこういう活動が広がっていけば、もっともっと違う広がり方があると思います。それと、一般市民の目線でいくと、結構いろいろな賞があるから、別の部局のやっている賞とここのすり合わせとか、それももうちょっとよく全体像を見ながら制度設計したほうがいいかなという気はしています。

ついでにもう一点言うと、この個票は初めて見たのですけれども、すばらしい資料ですね。これ、落ちたやつはどうするのだろうというのがすごく気になっていて、業者のやつもいっぱいありますけれども、市民の方もそれなりに書いて、自分の地元のことを思い入れ深く考えて応募するには、それなりのエネルギーがかかると思うのですけれども、これ、何かの形で表に出せないのかなという気がすごくしました。これ以上応募件数がふえたら、事務局としてもやっつけられないと思うのですけれども、そのあたりのバランスを考えたほうがいいかなと思いました。

○関部会長 さて、いろいろご意見をいただいて、どうでしょうか、何か事務局のほうからレスポンスをいただけますか。いろいろご質問的なものもあつたし、提案的なこともあつたと思うのですけれども、資料7の(2)のところ、ぜひ議論してくださいということがあつたのですけれども、それに関連して今回第9回目のこれから広報、選考をしていくわけですけれども、その辺の中で少し可能性のあるようなこととか、この賞の趣旨そのものとか目的みたいなところに抵触しているお話もあつたと思うのですけれども、何かお話しただければと。

○鍋田書記 8回やってきて、かつては単に大きな、きれいな建物とかが受賞されるという時代もあつたのですけれども、それからかなり活動系といいますか、活動する中でどういうものが生み出されていくとか、あるいは地域とどうかわらつてつくっていったかというようなところが強調されるようになってきたのかなと考えていまして、かつてとは変わってきているというような実感があります。

それから広報に関してなのですけれども、いろいろご意見をいただきまして、今後検討したいとは思いますが、かつてまだまちなみ景観賞といわれていた時代に、慶応の日吉の並木が受賞したことがありまして、慶応がそのことをホームページで書いたままになっているのですけれども、ホームページを見るとかなり浅いところでそれが出てくるのです。それが結構、日吉のまちを語るときに引用されているというようなことがありまして、慶応さんにはお礼を言いたいですけれども、そういう形で日吉のことを言おうとするとそれが出てくるみたいなどころがあって、それなりの効果があったのかなと思っています。今後、そういう引用されるような賞にしていけば、もうちょっと知名度は上がっていくかなと思っています。

○鈴木委員 プレートの設置、外部に設置できるようにして、今回は結構たくさん皆さん設置してくださいまして、それはすごくよかったと思うのです。首都高速道路なんか、すごく喜んで、たまたま土木学会の田中賞も受けているので、1つのもので2個賞を受けることというのはないのだそうです。初めてなのかな、首都高でも。だからというので、橋につけるわけにはいかないの、設置用のモニュメントをちゃんとつくって、すごく喜んでるのがよくわかったの、やはりそういうふう以外の人にもプレートを見てもらえるような、そういう形にしたのはすごくよかったと思うのです。

あと、人・まち・デザイン賞ではないですけれども、例えば前回で人・まち・デザイン賞を受けたmina GARDEN 十日市場、これは今年のグッドデザイン賞100に入っています。ほかにも幾つもそういう賞が受けられるようなものに育っていけばいいと思います。あとやはり中津委員がおっしゃったように、心のきれいな子供のうちから、すごくそれは大事だと思うのです。私は、20年くらい前、都市デザイン室の北沢さんたちに、心のきれいな時代から景観というものの大事さとか、そういうのを教えていけば、大人になって悪い業者にはならないでしょうと言ったことがあるのですけれども、中津委員などがそういうことを推進してくださいまして、都市デザイン室さんとしてもいろいろな取り組みを子供たち用にしてくださいまして、これから育つ人たちのためのものをやっているというのはすごくうれしいですね。そういう子供たちが多分こういうものに応募してくれるのではないかと考えています。

○関部会長 この作品集は表彰式の前につくられたのでしょうか。

○事務局 前回の審議会のメンバーには全員にお配りしていて、今日初めての方もいらっしゃるかもしれません。

○関部会長 一番後ろに過去の7回分の受賞案件が掲載されていますね。

○事務局 そうですね。これが第8回のときに作成した作品集になりまして、一番裏面には第1回から第7回までの受賞作品を載せています。中身としては、第8回に受賞された地域まちづくり部門と、まちなみ景観部門の受賞作品を掲載させていただいているような形になっています。まちなみ景観部門がグリーンの形で載せさせていただいているところで、第8回は郊外部で結構多く受賞されたというところが特徴的です。

○中津委員 受賞件数は毎回どうやって決めているのですか。

○事務局 件数は、過去のものを見ていただくと、大体6件から8件くらいまでというところで、おおむねそれくらいというところは事務局のほうからお示しをし、前回も大体6、7件くらいというような話で審議を進めていったのですけれども、最後絞り切れなくて8件でもいいのではないかと結論で、8件になりました。

○塩田委員 それは応募件数に対しての一定割合とか。

○事務局 一定割合とか、特に決まりはないのですけれども、最終的に前回よりも応募件数も増えているし、今回は8件の受賞でもいいのではないかとということで、最終的に8件になった経過があります。ただ、これまでの経過でいきますと、少ない年ですと5件の年もありますので、5件から7件くらいが大体これまでの状況です。今後応募件数が増えていくようであれば、より件数も増やすというのものもあるのかもしれませんが。

○中津委員 落選した人たちに、落選理由みたいなものがあるようなチャンネルってないですよ。まち普請とかだったら公開審査だから、落ちた人たちはその場で落ちた理由を体験するわけですが。

○鍋田書記 ほとんどが他薦なので、知らないままノミネートされているという状態なのです。だから、自分が推薦されたことも落ちたことも知らないのです。

○中津委員 でも少なくとも自分のまちにある何かを自分で発見して、自分で写真を撮って応募しているわけですよ。それが落ちた理由って、知りたいと思いませんか。特に一般市民であればあるほど。業者だったら応募したことすらも忘れちゃいますけど。それって、何かもうちょっと考えてあげたほ

うがいいような気がしますけれども、他薦が多いからこそ。

○鈴木委員 まちなみ景観部門って、写真は応募のときがないですよ。だから写真ないのですよ。

○中津委員 これ、全部写真が入っていますけど。

○鈴木委員 これは事務局が撮影したのです。

○中津委員 そうなのですね。

○鈴木委員 はがきに付近の案内図というのがあるのですけれども、応募する人って、やはりこの景観がいいというのがあるわけです。だから、写真をつけたい人はつけるみたいな形、必須でなくていいから。でも例えば土木なんかだとすごく大きいので、こちらから見るのとこちらから見るのと違うので、私はここが推したいみたいながあると思うのです。だから、そういうふうなのがあるように写真の添付というのを、電子メールでもつけられますから、それはつけたほうがいいのではないかと私は思っています。

○中津委員 今ときは高齢者でもインスタグラムをやり始めていますから、ぱっと撮ってハッシュタグで何か「まちなみ応募」とかっていうのでひゅっといっちゃうようなもののほうが。でもそんなのでばんばん来たら、あつという間に1000件ぐらいってしまいますよね。

○鈴木委員 そうですね。

○関部会長 確かにこの個票の写真で現地調査前に書類審査を我々はする。そこから実際に現地に行くか行かないかとか、たまたまお近くに住んでいれば日常的に見ているものが応募される場合もあるのですが、やはりこの個票の4枚の写真の意味は非常に大きいです。

○鈴木委員 重要です。はっきり言ったらこれしかないみたいな。

○関部会長 ビジュアルの資料を付して応募するようにできるか。それも課題かもしれませんね。

あと、今まで受賞された方に対してヒアリングするなりコメントをいただき、それを応募のリーフレットに載せるとか、そういうことを考えているとおっしゃっていましたが、その辺についてはどうですか。実際に進められるのかどうか。私はあったほうがいいなと思っています。

○事務局 そうですね。実は地域まちづくり部門でも同じような話がありまして、過去に受賞された方のコメントとかをリーフレットに載せたらという話もありました。まちなみ景観部門のほうも同様に思っています、実際に前回受賞された方とかにも内々に当たったりして、そういうお話をいただけるかどうかというところを検討しているところなのですけれども、やはりそのプレートもそうなのですけれども、受賞されたことによっていろいろ反響があったり励みになったというようなご意見もいただいているので、ぜひそういうのをリーフレットでもご紹介をさせていただければというふうには考えています。

○塩田委員 反響とか励みとかという部分に関してなのですけれども、募集するときに「日経コンストラクション」であったり「新建築」であったり、雑誌を使われる計画をされていますよね。その選定された後のものを、今年はこのものを選考しましたという選考理由や何かとともに記事にして載せてもらうというようなことは考えられないのでしょうか。結局、応募したものがメディアに出ているということは、結構一般市民としてはうれしいものだと思うのですけれども、その辺はいかがですか。

○事務局 そうですね。どちらかというと、そちらの広報というのは余りこれまでやってきていなかったのです。

○塩田委員 結局、それがまた広く関心を広げていくということにもつながるのではないかとと思うのです。

○事務局 そうですね。ホームページとかは、市のほうでも実施はこれまでしてきたところなのですけれども、余り積極的にほかの建築雑誌とかに受賞作を載せてもらってはいないです。

○塩田委員 そういうことはされてらっしゃらない。

○事務局 してこなかったです。

○塩田委員 あと、ホームページと今おっしゃったのですけれども、例えば市役所さんではほかにも幾つも持たれていますよね。例えば健康福祉局さんでウォーキングポイントという事業をされていますけれども、あれがフェイスブックのアカウントを持っていて、市内の見どころポイントを案内してきたりということをしているのですけれども、そこに入れてもらって、決まりましたと。そうすると受賞作を見に行ってみようかという人は絶対出てくるはずなので、そういう広がりも広報の一つかなと思うのです。

○中津委員 見に行くことで健康になるような、そういうイベントができればいいですよ。

○塩田委員 そうですね。バラが咲いていますよと、山下公園は見ごろですよという記事が流れてき

たりしますので、そこに入れ込んでしまうというのは手ではないかと思うのですけれども。

○中津委員 「新建築」とか「日経アーキテクチュア」はちょっと敷居が高いので、「横浜ウォーカー」なんかのほうが、広がるのはいいかなという気はしますけど。鎌倉特集にしないで、それやったほうがいいかなと思います。

○関部会長 あと、自薦よりは圧倒的に他薦が多いのですけれども、他薦でこういうのがあっていいなと思って、推薦された方というのは匿名なのでしたか。

○事務局 匿名でも可という形です。

○関部会長 でも、自分が推薦したものが受賞したという、人様のものだけでも、推薦した側としては自らが評価されたみたいなものでもあるので、そこへのフィードバックというのか、それもあるかなと思います。いわゆる、このまちなみ景観の場合は作品というか、ものがあって空間があってという、ハードのものがあっても、実際に受賞される方はそれに関わったいろいろな人や組織なので、もう一つその推薦した人というのを、こういうふうオープンにやっている場合にはどこかで知らせたほうがいいと思います。もともと関心があるから間接的には結果をご存じなのかもしれないですが、もう少しフィードバックがあると、じゃあまた次の回にも応募してとか、あるかもしれない。あと、やはり最終的には私どもが選考するので、そのときにいろいろ今出たような活動のほうの関わりとか、まちづくりとの関係とか、郊外部のものも少し丁寧に見るみたいな、そういうことをちょっと念頭に置いておいてもいいかなと思います。応募が上がってこなければどうしようもないのですけれども、我々の視点というか、選考にあたってのポイントを考え直すなりして、そういうことも意識しながら選考に当たればというふうに思いました。

大体時間ですので、最後の景観教育のことについて触れたいと思います。これはたまたま落書きをどうしようかというようなきっかけから始まって、こういうワークショップが行われたというのですけれども、今後何かもう少し市のほうから、あるいは景観調整課のほうから積極的に取り組みたいというような話はありますか。

○事務局 そうですね。国の助成事業でそういった景観の学習をやると10万円補助して、総合学習とかで使っていていいですよという取り組みがあって、そういった学校は、うちも一緒にやったり、広報したりしていますので、この学校以外でもそういったものができたらいいなとは思っています。

○関部会長 そうですね。誰でも応募、推薦はできるわけだから、そういう小学生とか、ピュアな観点でいいなと思うようなものを応募の機会として広げていくような、それも大事なかなと思いました。

○事務局 先ほど校長会という話があったのですけれども、10万円の助成事業のほうは校長会でPRはしていたりして、その場でこういったデザイン賞とかも一緒にやってもいいのかなと思いました。

○関部会長 そうですね。

○梶山書記 ちょっと余談なのですが、たまたま昨年川崎市の小学生100名くらいの方々が、横浜のまち歩きをしたいということで、何班かに分けて、関内あたりの近辺を回ったというのがあったのですけれども、その先生が多分ロコミで、これはすごいいいというようなことが伝わったらしく、今年同じ案件を3件くらい要望を受けてしまっているのです。ちょっと大変なので体制はどうしようかというのはあるのですけれども、やはりロコミみたいな、先ほど言った、1回いい経験をする、というのが伝わっていくというのは結構すごい影響力があるのかなというのはあったので、うまく伝わっていく仕組みみたいなところも含めて、今後やっていくとかなりいろいろな需要が掘り起こせるのかなという気はいたしました。

○鈴木委員 ケーブルテレビって1週間くらい同じものをやるので、そうすると、結構毎日1週間この内容でやりますみたいな感じで、割と見る人は見ているのでいいのではないかなと思います。例えば、鶴見にYOUテレビというのがあるので、鶴見地区でこういうのが受賞しているから、そこを歩いてみようみたいな番組をつくってもらってもいいです。なかなかテレビ神奈川さんとお金がかかってしまうと思うので、ケーブルテレビさんに協力していただくのもいいと思います。

○事務局 前はたまたま取り上げてもらって、特集的にやってくれたのですけれども、毎回そういうふうしてくれるかというとなかなか難しいかもしれないので、ほかのメディアとかも当たればと思います。

小学校の取り組みも、これからなのですけれども、まちの景観をよくしていくための絵を考えて、それをまちに出していくような形になるので、そういったものがこういうまちなみ景観賞とかにノミネートされるようになっていくと、活動が景観をよくしていくものになって出てくるような形になるので、こういった「夢の舞う岡」と同じような、そういうものが広がると良いです。応募で

	<p>も、地域まちづくりの活動をしている方が、自分の活動に絡んだようなことを応募してくれたりというのが増えてきているので、そういうつながりの部分が少し増やしていければと考えています。</p> <p>○関部会長 確かに地域まちづくりのほうは応募するのに相当書類とかが大変だとか、はがき1枚というのと違うので、こちらは非常にフットワークが軽く応募できるので、そういう活動をされている方々がこちらにも関心持っていただくというのは広がるかなと思います。</p> <p>○事務局 活動していく中で、まちが変わっていったときに、こちらのまちなみ景観でも応募できるのではないと思われる方が増えてきているのかなと思っています。</p> <p>○関部会長 そうですね。どうでしょうか。ほかに何かご意見ありますでしょうか。</p> <p>ちょっと1つ細かいところで質問。先ほど資料1別添の受賞プレートの設置写真で、これは2つとも、大熊川トラス橋なのですが。</p> <p>○事務局 はい。「新横浜公園から見た大熊川トラス橋」ということで、公園側の受賞と橋側の受賞ということで、プレートを2つ作成しまして、それぞれにお渡ししたところ、それぞれでこういう形で一番見やすいポイントとかを配慮して設けていただいたということで、新横浜公園のほうは本当に橋がすごく見やすいところのポイントにわざわざこういう形で設置をしていただきまして、橋のほうは橋のほうで、田中賞の賞とあわせて設置していただいたということで、すごく配慮をしていただきました。</p> <p>○関部会長 どうでしょうか。ご意見とかなければ、一度事務局のほうにお返しします。</p> <p>○事務局 本日はいろいろ本当に参考になるヒントをいただきましたので、いただいた意見を事務局のほうで持ち帰りまして、今後の募集・広報に向けて取り組んでいきたいと思っています。1月にまた合同部会がありますので、そこで取り組みについてはご紹介をさせていただければと思っています。ありがとうございます。</p> <p>○関部会長 では、大体時間になりましたので、本日予定されました議事は終了したということで、最後に事務局のほうから確認をお願いいたします。</p> <p>○鍋田書記 どうもありがとうございました。一つ一つちょっとまとめられませんが、一番大きなところでは今後どういう姿を求めていくのかという重い宿題をいただいたと思っています。またPRの仕方につきましては、いただいた意見を参考にできるだけのことをやっていきたいと思っています。次回ですが、合同部会ということで1月12日の10時から12時、場所は関内中央ビル5階特別会議室となっています。ご都合が合わなかった委員には大変申しわけなくと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の議事録については、部会長の確認を得た上で公開させていただきたいと思います。</p> <p>閉 会</p> <p>○関部会長 それでは、長時間かついろいろ貴重なご意見、有益なご意見をご提案いただきましてありがとうございました。では、以上で議事を終了させていただきます。どうもありがとうございました。また、今後もよろしくお願いいたします。</p>
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名簿</li> <li>・座席表</li> <li>・資料1：横浜・人・まち・デザイン賞まちなみ景観部門の概要について</li> <li>・資料2：第8回横浜・人・まち・デザイン賞 スケジュール（案）</li> <li>・資料3：第8回横浜・人・まち・デザイン賞 募集に関する広報について（案）</li> <li>・資料4：第8回横浜・人・まち・デザイン賞 まちなみ景観部門の選考方法について（案）</li> <li>・資料5：第7回横浜・人・まち・デザイン賞アンケート結果</li> <li>・資料6：まちなみ景観部門 表彰対象地区一覧</li> <li>・資料7：「横浜サイン」を推進するための表彰制度について</li> <li>・資料8：横浜まちづくり顕彰事業実施要綱</li> <li>・資料9：横浜まちづくり顕彰事業実施細目</li> </ul>
<p>特記事項</p>	<p>本日の議事録については、部会長が確認する。</p>